



木彫刻家 四代目 小森 恵雲 氏

木彫りの仏像や人形、「浮立面」などの作品を制作。
自然木の木目を活かし彫り上げた作品において、伝統の
技に創意工夫を加えた独自の世界を確立。
平成14年佐賀マイスターに認定されました。

面師 中原 恵峰 氏



木目を活かした白木仕上げの浮立面や各地の面浮立など
県内に3人しかいない貴重な面師の一人です。
迫力ある鬼面作りは高い評価を受け、平成24年には伝
統的工芸品産業大賞功労賞も受賞されました。

伝統工芸



鹿島錦

鹿島錦は今からおよそ200年前、鹿島鍋島藩主直彝（なおのり）公夫人篤子（柏岡）が病の床に臥したとき、ふと見上げた天井の網代模様の面白さに心惹かれ、これで何か日用品を作れないかと側近のものに相談されたので、近習の並木某が苦心研究の末、観世縫（かんぜより）で網代形（あじろがた）を編み、印籠などを作ったのが始まりと云われています。